令和 3 年 9 月 21 日

長野県観光振興審議会　会長　様

委員　金澤武彦

発言時間に制約がありそうなので、発言したい内容を下記の通りまとめました。
議事録等に、この内容を含めていただきたく、お願い申し上げます。

記

1　After コロナを見据えて、中長期的な視点から「長野県観光のあるべき姿」の方向性について、ご意見をお伺いしたい。

2 上記方向性も踏まえ、当面（特に R4 年度)、県が取り組むべき施策について、ご意見をお伺いしたい。

上記 2 つに対しての意見

資料「C-1」に記載されている単語を抜粋して

- After コロナ（最良）という幻想を捨てるべきであると思う。
- 新型コロナがインフルエンザや風邪程度と同じという社会的な認識（ワクチン、治療薬などの要因も含めて）になるまで、今から 10 年程度は、With コロナを前提に考えるべきであると思う。
- 10 年を考えると、特に、新型コロナ対策を観光行政に持ち込むべきではない。（県の保健行政のなかで、観光施設等の在り方を考える程度で十分だと思われる。結局のところ、人の交流を止めることができないのであるから、観光施設だけ神経質な手当てをしたところで、結局は無意味だと思う。）
- 令和 4 年度の大型祭事なども、長野県としての（普通に）安全対策を行い、実施すべき状況であれば実施すべきである。・・・実施すべき状況かどうかの判断は、その時その時に、然るべき人が判断せざるを得ず、感染状況、経済状況、宗教的な意味合いも含めて、様々な観点から判断して欲しい。少なくとも、これまでのような神経質ともいえる判断から、総合的（俯瞰的）な判断に切り替えて欲しい。

資料「B-5」に記載されている事例から

■ 疲弊している事業者は多い。よって、スポット的な視点は業界としてとてもありがたい。一方で、「値引きしないと来ない客層をいつまで狙うのか」という問題もあり、カンフル剤には副作用があることを認識しつつ、令和 4 年度も継続して、必要に応じての柔軟な援助ができる体制（予算）を確保しておいて欲しい。

資料「A-3」「A-4」に記載されている内容から

■ 消費単価が上がっているという理由がわからない。Go To キャンペーンにより、補助額分も観光消費に含まれ、それを割り返したら消費単価が上がったということなのか？　であれば、「アフターコロナを見据え、今後は現状の高い消費単価を維持しつつ・・・「A-3」からの引用）という記述はおかしいのではないのか？　また、「長期滞在型観光の推進や・・・同、引用）とあるが、「連泊割引による長期滞在への誘導・・・(After コロナ時代を見据えた観光振興方針からの引用)」という記述もあり、これまでもこの審議会で指摘している、県の割引に誘導する嫌いが抜けていない。

資料「After コロナ時代を見据えた観光振興方針」に記載されている内容から

■ 現状認識にある 1 ページ右下「コロナ後」の記述は、本当にそうなるのか？　それば、長野県の観光という事業ボリュームに整合するのか？　例えば、記述には「人混みを避けたい」とあるが、現実に混んでいる観光地もあるのではないのか？　新しい需要も起こるが、ボリュームとしては、ある程度、元に戻るのではないだろうか？　新しい言葉にばかり焦点を当てているように思うが、既存の観光事業者（新陳代謝も必要で 100%守る必要はないが）が助かる施策になっているのか？

■ 「旅マエ」「旅アト」などの事業展開で、既存の観光事業者が助けられるのか？　新しい技術の導入で、新しい産業が生まれるかもしれないが、既存観光事業者の助けになるのか？

■ そもそも「第 2 章観光地域としての基盤づくり」が欠けているのではないか？　なので、目新しい施策よりもベーシックなもの（二次交通など）に注力して欲しい。

資料「信州の・・・長野県観光戦略 2018」に記載されている内容から

■ 1 ページ目「県としての「稼ぐ」・・・」とあるが、全てにおいてビジネスモデルが見えない。(ビジネスモデルとはビジネスの仕方ではなく、利益を生み出す方法。どうすれば、利益が生まれるのかの道筋。)

■ 「稼ぐ」のは誰なのか？　「県として」とあるから、「県や観光機構は、小手先のアイディアに走りやすくなっているのではないか？　本来、稼ぐのは県内の事業者や県民（移住者でも構わない）ではないのか？　それを支援するのが観光行政ではないのか？　その役割分担も曖昧になってきると思う。

端的にいうと、令和４年度は

- カンフル剤の準備
- 国が出すことを期待して、観光支援の補助事業の機動的な導入から「第 2 章観光地域としての基盤づくり」の推進（小手先に走らず、基盤づくりを大切にして欲しい）

その他の意見として

提案１　水上飛行機の運行支援

- 白樺湖で水上飛行機の運行を行いたい。
- アルプス、富士山、浅間山などの山岳景観はユニークかつ素晴らしく、遊覧飛行を事業化したい。
- 羽田、中部国際空港からの交通手段としてインバウンド向けにサービスを行いたい。
- 木崎湖、青木湖、野尻湖など、着水可能な湖もあり、長野県の観光リゾートとしての優れた商品になると思われる。
- 同類のサービスが全国で実施されても、アルプス、富士山、浅間山などのコンテンツには競争力がある。
- テストケースとして、白樺湖での水上飛行機運行の支援をお願いしたい。

提案２　国定公園に関しての窓口の変更等

- 他のエリアは調べていないが、白樺湖周辺は、国定公園であり県の出先が 3 つに分かれている。
- 自然もお客様から見ても一つのエリアなのに、自然公園法の窓口は 3 つに分かれている。
- 戦略推進本部を設定したくらいであるから、観光は長野県の各部署が横断的に対応してくれるものと期待している。
- 自然の景観、環境の保全保護は、観光においても守るべきものであり、その大切さと商品性は同価であると見なす時代ではないか。
- 環境省の下請け業務でなく、長野県のモデルとして、「自然や景観を守り・価値を高める」ことを、地域と協力して、実施して欲しい。

- まずは八ヶ岳中信高原国定公園を本庁管轄にして欲しい。公園計画の見直しを短期で行って欲しい。

提案３　天気予報　（長野県索道事業者協議会からスノーリゾート信州プロモーション委員会に提案済み）

- 国内（特に東京周辺）向けに、天気予報を細分化して欲しい。
- 全国放送からすると、「長野」は長野市の天気予報。
- 月～水曜日あたりに、その週末の天気予報を見て、週末の行動を予定する。（仕事関係、学校行事、クラブ活動などから家族単位、職場単位でも予定を事前に決めることが多い。宿泊を伴うなら尚更である。）
- 県内のテレビ局でも「北・中・南」程度。
- 天気が荒れるところ、穏やかなところ、晴天・・・1 日のうちでも場所によって天気が異なる。
- ネットでの細分化（観光地、リゾート地）した天気予報の発信。少なくとも県内放送局には、現状より細分化した天気予報を出すよう、アクションを起こして欲しい。

提案４　ライブカメラ（お天気カメラ、山の景色カメラ、果物の実りカメラなど）

- 長野県に来てくださいという意味のライブカメラではなく、長野県に泊まっているお客様が、「今日はどこに行こうかなぁ」「今日は上信越道で帰るか、中央道で帰るか、どうしよう」ということを、ペンションやホテルなどでの朝食時に確認できるライブカメラ（静止画像で十分）。
- つまり、「とりあえず、長野県に泊まって、何をするかは天気を見て決めよう」という需要を喚起したい。東京から近い、愛知から近い山岳リゾートとして、その優位性を発揮できる。
- 具体論は割愛。
- 情報インフラとして、県で実施して欲しい。

提案５　観光振興審議会の運営方法の見直し

- 一人 5 分程度の発言で、しかも議論もできない。
- アリバイづくり、ガス抜き会議としか思えない。
- 運営方法を見直して欲しい。